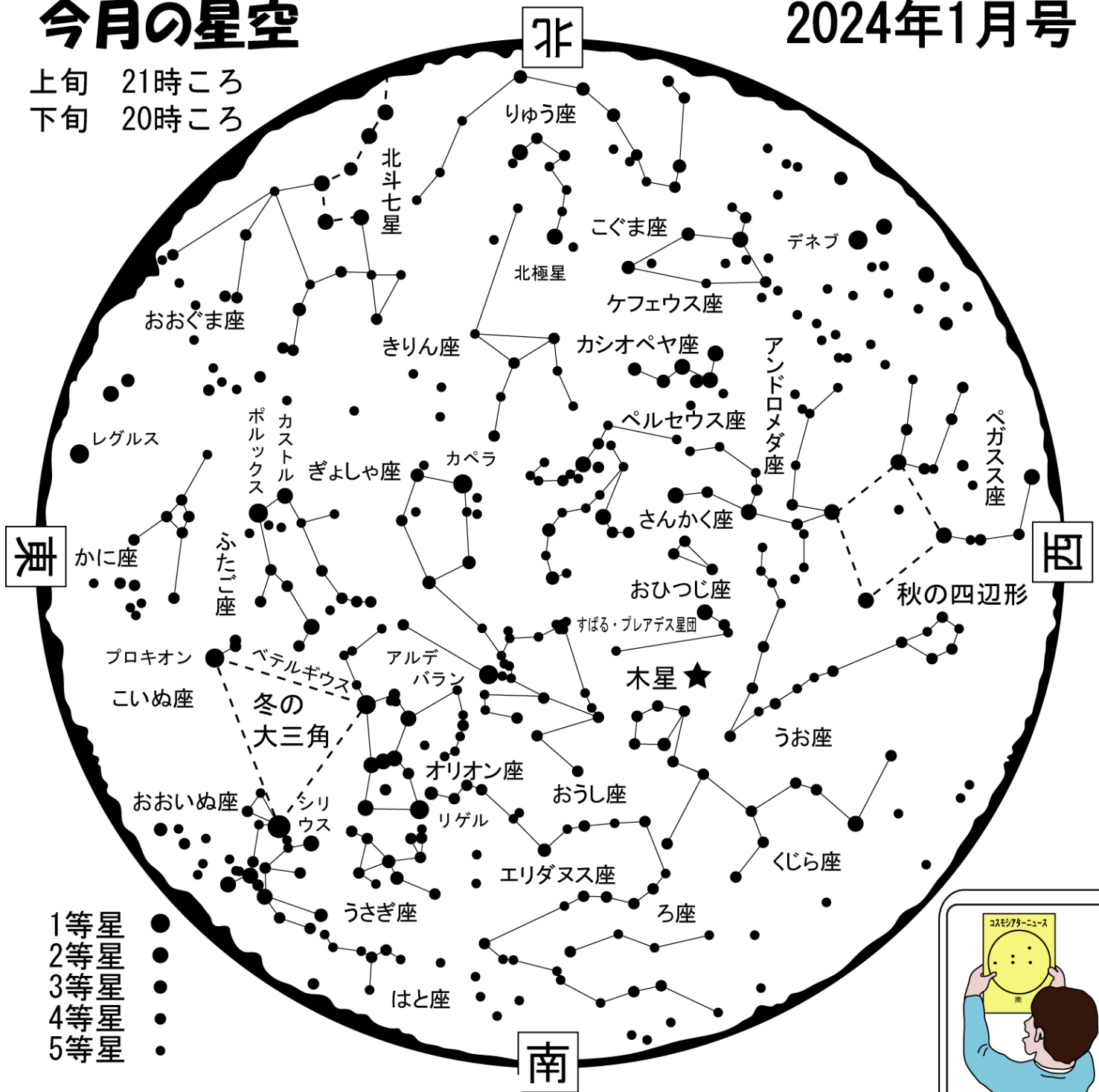


コスモシアターニュース

今月の星空

2024年1月号

上旬 21時ころ
下旬 20時ころ



惑星の動き

水星：中旬までの明け方、南東のたいへん低い空に見えます。明るさは0等星です。

金星：明け方、南東の低い空に見えます。明るさは-4等星です。

火星：見かけ上太陽に近く、見つけるのは難しいでしょう。

木星：夜のはじめころ、南の空に見え、真夜中ころに沈みます。明るさは-2.5等星です。

土星：夕方、南西の空に見え、20時~21時ころに沈みます。明るさは1等星です。

今月の月の満ち欠け

下弦：4日(木) 新月：11日(木) 上弦：18日(木) 満月：26日(金)

4日(木)、明け方、りゅう座(しぶんぎ座)流星群が極大となる

りゅう座流星群は、りゅう座の方向から全天に流れていきます(※昔は、ここにしぶんぎ座があったので、しぶんぎ座流星群とも呼ばれます。)。流星群の極大は、4日(木)の夕方ころです。今年は月明りがあり、あまりいい条件ではありません。また、極大の前後数時間しか流星が多くなりないので、松山市内で、4日の深夜に、多くて1時間あたり数個程度になるでしょう。

9日(火)、明け方南東の空で、月と金星が並んで輝く

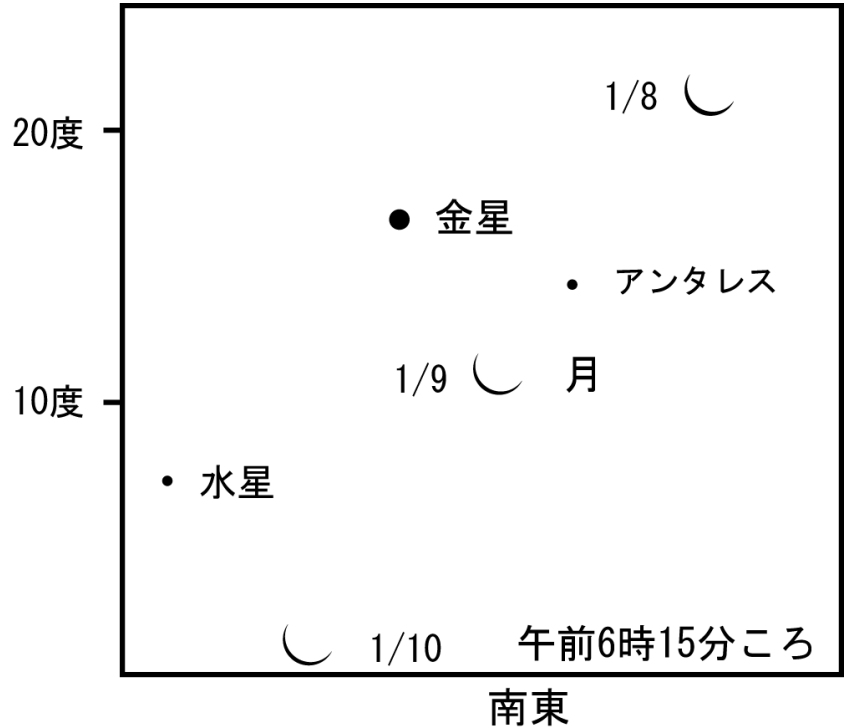
明け方の午前5時から6時ころ、東から南東の空を見ると、大変明るい星が見えます。この星が金星です。この金星に、9日(火)の明け方、細い月が並んで、大変美しい眺めとなるでしょう。

前日の8日(月)の朝は、月が金星の右側に輝きます。この日も月と金星が接近して見えます。そして、9日には、月が金星にさらに接近し、金星の下側に移動します。

天気が良ければ、金星の右側少し下寄りに、さそり座のアンタレスが見えるでしょう。また、金星の左下へ下がっていくと、水星も見えるかもしれません。

また10日(水)の朝は、地平線付近に月が移動し、この接近は終わります。天気が良ければ、連続してご覧いただくと、月の位置や欠け具合の変化を見ることができます。ぜひ早起きをしてご覧ください。

なお、右の図は、午前6時15分ころの位置で描いています。月と金星だけで見ると、さらに30分後の午前6時45分ころでも見えるでしょう。



14日(日)、南西の空で、月と土星が並んで輝く

14日(日)の18時30分ころ、ほぼ三日月の細い月が、南西の低い空に輝いています。そして、月のすぐ右上に、明るめの星が並んで輝きます。この星が土星です。土星は、普通の1等星ですので、肉眼でもすぐに見つかります。ただし、月と土星は、時間がたつと沈んでいきますので、19時ころまでにご覧ください。

18日(木)、南西の空で、月と木星が並んで輝く

18日(木)の20時ころ、南西の空に、明るい月が輝いています。そして、この月の左側を見ると、明るい星が輝いているのが分かるでしょう。この星が木星です。木星は-2.5等星で、普通の1等星の20倍以上明るいので、大変目につくでしょう。

なお、月と木星は、時間がたつと高さが低くなっていきます。月が沈むのは真夜中ころですが、はやめに見るのがいいでしょう。

★冬の明るい星を見よう

冬の夜空は、冬の大三角や冬のダイヤモンドといった、分かりやすい星の並びがあります。これらの中で、最も明るいのはシリウスです。プロキオンも明るく、冬の大三角は大変目立つ存在となるはずですが、ただ、20時ころではまだ高さが低く、南の空高く見えるのは、夜遅くになります。

右の図は、冬の星が最も高く昇ったころの時刻に、南の空を眺めた時の星空です。画像の上が北、右が西、左が東となります。

冬のダイヤモンドは冬の六角とも呼ばれ、大変大きく広がっています。また、カペラは頭の真上を越してやや北の空より、ポルックスはほぼ頭の真上になります。

なお、地平線付近のカノープスは、天気によって見えないときもあります。なかなか見えないので、見えるといいことが起こる、長生きができるなどと言われます。地平線まですっきり晴れた夜は、ぜひ探してみてください。

